

日本博総合推進会議（第3回）

議 事 次 第

日時：令和4年5月12日（木）

17時00分～17時20分

場所：官邸2階大ホール

1 開 会

2 議 事

- （1）今後の文化芸術政策について
- （2）「日本博2.0」について
- （3）意見交換

3 総理発言

4 閉 会

《配布資料》

資料1 今後の文化芸術政策について

資料2 「日本博2.0」について

《参考資料》

参考資料1 「日本博」について（概要）

参考資料2 日本博総合推進会議の開催について

参考資料3 日本博総合推進会議運営要領

和×美
「咲き誇れ! 日本文化」戦略 WABI - Worldwide Art Blossom Initiative -

- ▶ CBX（カルチュラルビジネスの(グローバル)トランスフォーメーション）の実現
- ▶ グローバル・トップとなり得る人材の育成
- ▶ 文化芸術のグローバル市場への浸透（プロモーション等）
- ▶ 文化芸術発信拠点等の形成・発展
- ▶ 国際的なアートフェア誘致に向けた環境整備（一元的な相談窓口の整備等）等

【1】文化芸術のグローバル展開

- ▶ DX時代に対応した著作物の権利保護・適切な対価還元、利用円滑化の促進
- ▶ DXによる博物館・美術館改革
- ▶ 博物館・美術館におけるデジタル・アーカイブ化・公開の加速化 等

【2】文化芸術DXの推進

【3】文化芸術活動基盤の強化

- ▶ 子供文化芸術体験活動の推進
- ▶ 文化芸術関係者の活動実態の把握
- ▶ 新型コロナ等への対応
- ▶ 契約慣行の改善（契約書のひな型作成等）等

【4】文化財の保存・活用等

- ▶ 文化財の匠プロジェクト
- ▶ まちづくり・文化財保護の連携
- ▶ 地域の伝統行事等の伝承
- ▶ 文化財のDX対応
- ▶ 食文化、文化観光の振興 等

新たな価値創造

「日本博2.0」を活用し、
 我が国の文化芸術が、世界からの憧れ、
 関連活動への投資、訪日等を生み出す。





文化の力で成長を！ パワフルな「日本博2.0」でシフトアップ

2025年大阪・関西万博へ、「日本の美と心」を発信

1. 最高峰の文化の祭典

伝統芸能、舞台芸術、音楽、メディア芸術、アートなどから厳選、国内外へ発信

2. 地域の魅力を総動員

文化×農泊×食×交通×宿×自然×スポーツ×交流×学びetc を磨き上げ
「広がり」と「奥行き」を持った真に満足出来る観光、地域のファン作り

3. 最先端のバーチャル体験

アフターコロナを見据えてリアルとバーチャルを融合、
メタバース、NFT等の先端技術を活用した、ボーダーレスで新しい鑑賞・体験

4. 若い力で未来を拓く

未来を生きる若者が参加、障害者芸術・多文化共生の推進
若者目線で、未来に持っていきたいものを創造し、鑑賞し、考える

5. ソフトパワーで日本の心を発信

海外アーティスト、文化施設等と連携して協調・交流の促進
インバウンドを含め、海外の人へ日本の美・心を伝える

2025年大阪・関西万博を機に
全国展開

「日本博」について（概要）



※ 1



基本コンセプト:「日本の美と心」

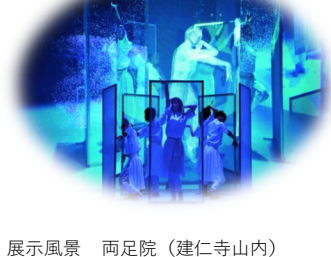
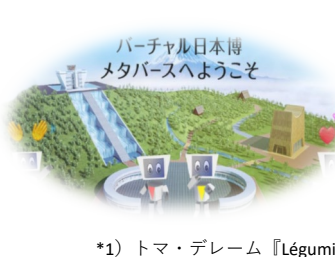
縄文時代から現代まで1万年以上もの間、我が国では山や海や物も含めた万物に命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を文化芸術や日々の暮らしで表現してきた。

縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、音楽、現代アート、マンガ・アニメ、メディアアートなど様々な芸術分野に、この国の風土や日本人の自然観が反映されている。また、衣食住をはじめとする暮らし・生活様式においても、人が自然に対して共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしてきた。

「日本博」では、縄文時代から現代まで続く我が国の文化芸術を「日本の美と心」をテーマに国内外へ発信し、多様な主体の参画と対話により、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、社会課題の解決、経済社会の新しい成長、平和への祈りへとつながることを希求する。



※ 2



*1) トマ・デレーム『Légumineux 菜光ーヴェルサイユ宮殿庭園の古代種ー』展示風景 両足院（建仁寺山内）

*2) 名和晃平 《White Deer (Meiji Jingu)》2020 ブロンズに塗装 Photo : Keizo Kioku

「日本博」等における実績・事例

実施件数(日本博)

令和元年～令和3年の3年間で**合計約1,000件**の事業を**全国各地(47都道府県)**で開催

開催延べ日数は、

令和元年度 **19,269日・回**

令和2年度 **14,279日・回**

令和3年度 **14,079日・回**

参加者総数(日本博)

(実施団体による報告を集計)

令和元年度 **1,970万人**(うち外国人108万人)

令和2年度 **1,377万人**(うち外国人82万人)

現地での参加者 669万人 (うち外国人 2万人)
オンライン参加者 708万人 (うち外国人 80万人)

令和3年度 **1,191万人**(うち外国人97万人)

現地での参加者 444万人 (うち外国人 11万人)
オンライン参加者 747万人 (うち外国人 86万人)

※ 令和3年度の数値は暫定値

事例

◇ 上質で魅力的な文化観光サービス開発

MOA美術館(熱海市)／令和3年度日本博

人間国宝が制作した器で頂く「和食」(ユネスコ無形文化遺産)と、館内の能舞台での歌舞伎舞踊公演がセットになった「見て食べて楽しむ」プロジェクト。富裕層向けの価格帯**(78,000円)**で提供し、**完売**。



工芸 KOGEI



和食 WASHOKU



芸能 PERFORMANCE



人間国宝の工芸作家制作の器で和食を提供
(一部作家の作品は購入可能)



坂東玉三郎(人間国宝)による歌舞伎舞踊公演

✓ R4年度は、在日大使館を招待し、外国人富裕層に上質で魅力的な文化観光を発信するとともに、外国人富裕層目線での磨き上げ

◇ コロナ禍でのリアル体験

JAPAN LIVE YELL project

(公益社団法人日本芸能実演家団体協議会)／令和2年補正・アートキャラバン事業

統括的団体を核に据え、

1,045公演47都道府県全てをカバー

(「大規模公演型」と「地域連携型」)

プロジェクトへの出演者・スタッフ数のべ**21,404人**

参加数(オンライン含)**717,917人**



◇ 舞台芸術のデジタルアーカイブ・配信

EPAD事業

(EPAD実行委員会/寺田倉庫株式会社、緊急事態舞台芸術ネットワーク)／令和2年補正・文化芸術収益力強化事業

公演映像のアーカイブ化・配信可能化

1,283本(うち配信291本)

スタッフ技術のEラーニング動画の制作と教育連携

63本 再生数:490万回

- ✓ 海外共同制作への布石
- ✓ 最新立体音響技術とのビジネスマッチング
- ✓ 海外配信

海外展開



日本博総合推進会議の開催について

平成 30 年 12 月 25 日
内閣総理大臣決裁
令和 2 年 3 月 10 日
一部改正
令和 4 年 5 月 9 日
一部改正

1. 趣旨

2025 年日本国際博覧会の機運醸成やインバウンド需要回復、国内観光需要の一層の喚起を目指しつつ、日本の美を体現する我が国の文化芸術の振興及びその多様かつ普遍的な魅力を発信する日本博の具体化及び開催準備等に係る審議を行うため、日本博総合推進会議（以下「推進会議」という。）を開催する。

2. 構成

推進会議の構成は、別紙のとおりとする。ただし、議長は、必要があると認めるときは、関係者に出席を求めることができる。

3. その他

- (1) 推進会議の庶務は、関係行政機関の協力を得て、内閣官房において処理する。
- (2) 前各項に定めるもののほか、推進会議の運営に関する事項その他必要な事項は、議長が定める。

(別紙)

議 長	岸田 文雄	内閣総理大臣
議長代理	松野 博一	内閣官房長官
議長補佐	磯崎 仁彦	内閣官房副長官
構 成 員	若宮 健嗣	国際博覧会担当大臣
		内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略）
	林 芳正	外務大臣
	末松 信介	文部科学大臣
	萩生田 光一	経済産業大臣
	斉藤 鉄夫	国土交通大臣
	都倉 俊一	文化庁長官
	片岡 真実	森美術館館長
	齋藤 精一	パノラマティクス主宰
	島谷 弘幸	九州国立博物館長
	高階 秀爾	公益財団法人大原美術館館長
	橋本 麻里	公益財団法人永青文庫副館長

平成 30 年 12 月 26 日

日本博総合推進会議運営要領

日本博総合推進会議（以下「総合推進会議」という。）の運営については、この運営要領の定めるところによるものとする。

1. 総合推進会議は非公開とし、会議終了後、議事要旨及び総合推進会議で配布された資料を速やかに公表する。ただし、議長が特に必要と認めるときは、議事要旨又は配布資料の全部又は一部を公表しないものとすることができる。
2. 総合推進会議終了後、原則として、総合推進会議の事務局が記者ブリーフを行い、議事内容を説明するものとする。